

わかると快感!

# Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

## 江戸時代の農村の休日は、なぜ村ごとに決められていたのか?

(東京大学 2012年 日本史)



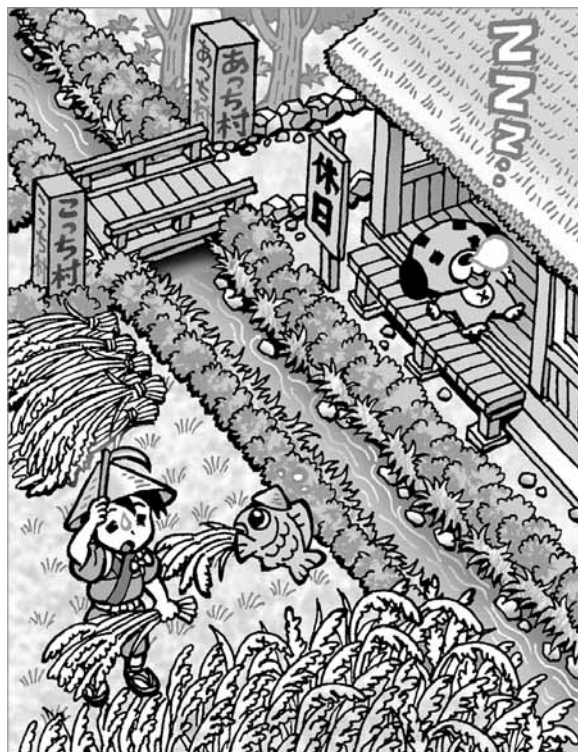
江戸時代半ば以降の農村の休日について記した次の(1)~(4)の文章を読んで、村ごとに休日を定めたのはなぜか、説明しなさい。

(1) 村には正月・盆・節句や神社の祭礼、田植え・稲刈り明けのほか、多くの休日が定められていた。数は、村や地域によりさまざまだが、年間30~60日ほどだった。

(2) 百姓は村の休日以外に家で休むこともあるが、村で定められた休日はおおむね守っていた。休日には平日よりもぜいたくな食事や花火などを楽しんだという。

(3) 村の名主のところに、若者が大勢で押しかけてきて、臨時的休日を願い出ることがあった。名主は村役人の会議を開き、その願いを認めたり拒否したりした。当時の若者は、リーダーを立てて強い集団を作っており、若者組と呼ばれた。

(4) 若者組のお金の使い道は、ほとんどが祭礼に関するものであった。飲食費のほか、芝居の稽古をつけてくれた隣町の師匠への謝礼や、近くの村のお祭りへの祝い金などがあった。



イラスト・瑞木匠

## 仲間意識を確認しあうため

田植え、稲刈り明けなどの農作業の休養日、若者組の願い出による臨時のお休み、という三つのパターンに分けられそうですね。このような休日は村で定められており、臨時のお休みも村の役人の会議で有無が決まっていました。しかし、(2)の文章を見ると、村の休日以外にも村人は自由に休めたようです。なぜ「村ごとに」休日を定める必要があったのでしょうか。

### 農作業には不可欠だった「村」

江戸時代の百姓は、せまい田畑を家族で耕作していました。しかし、田植えや稲刈りなど、農作業では短期間にたくさんの人手が必要です。そのようなときには、村の中で助け合って作業を行いました。百姓たちが自分の田畑の農作業を滞りなく行うには、村という集団が必要不可欠だったのです。

そのため、村には名主や役人などのリーダーが置かれ、村のルールが決められ、村人たちはそれを守って生活しました。若者組が中心的に担っていた祭礼は、村としての仲間意識を確認しあうためのものであったと考えられています。同様に、ぜいたくな食事や花火をして過ごす休日を村で共通に定めるのも、仲間意識の確認や、農作業を協力して行いやすくするためのものと考えられています。

【Z会・河原井彩】

### ! 今回の教訓

現代の日本では、土曜・日曜が2×52週で104日、国民の祝日が15日で合計119日、このほかに、小学生のみなさんには夏休みや冬休みがありますね。くれぐれも、みなさんは大勢で押しかけて臨時のお休みの要求などないよう……。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。

### 江戸時代の農村のお休みは3パターン

今回は江戸時代の休日に関する問題です。1年間は52週間ですので、年間30~60日のお休みだと、平均して週に1日お休み、といったところでしょうか。

(1)~(4)の文章を整理すると、正月、盆、節句、祭礼などの年中行事的なお休みと、